



こうだ人権会館だより

2015年
11月号

編集・発行 甲田人権会館 電話・お太助フォン 45-4922

12月4日から10日までは「第67回人権週間」です

国際連合は、1948年12月10日に「世界人権宣言」を採択しました。

これを記念して、国際連合は、12月10日を「人権デー」と定め、すべての加盟国に対して、人権高揚のための行事を毎年実施するよう呼びかけています。

法務省と全国人権擁護委員連合会では毎年「人権デー」を最終日とする一週間を「人権週間」と定め、人権意識の普及高揚のための啓発活動を全国的に展開しています。安芸高田市でも人権啓発行事を開催しています。

11月28日(土)

13時30分から15時

甲田文化センターミューズ

「仏教と人権」

～本願寺と施陀羅問題～

講師 仏教史研究者

林 久良 さん

12月12日(土)

13時30分から15時50分

甲田文化センターミューズ

「ある精肉店のはなし」

「同対審」答申が出されてから50年です

同和問題の解決に向けて、行政や教育、啓発活動など人権問題の解決の基本となっている同和对策審議会答申が出されてから、

今年で50年を迎えました。しかし、いまだに偏見や差別意識が社会に根強く残っています。この節目の年を差別根絶に向けた新たな出発点とし、家庭、学校、地域、職場が連携しながら啓発の機会を持ち、差別問題への理解を深め、決して他人ごとではないという認識を共有することが大切です。

同和对策審議会答申

国は部落問題の根本的な解決を図るため内閣総理大臣の諮問機関として同和对策審議会(同対審)を設置し、全国規模の実態調査から、答申が政府に提出されました。

1965年8月11日に出されたこの答申は、同和問題は、「人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、日本国憲法によつて保障された基本的人権に関わる課題である」とし、「この問題の解決は国の責務であり、かつ、国民的課題である」としています。

本当の平和って？

今年が敗戦後70年です。

「国際連合」では、人権の促進と保護に関する国の責務について3つの事を言っています。まず「人権を尊重すること」、2番目は「人権を実現すること」、3番



目は「人権を保護すること」です。戦争は最大の人権侵害です。今日、日本は戦争放棄を明記した憲法9条をどうみているのでしょうか。みなさんは、どうお思いですか。

日本国憲法 第2章 戦争の放棄

第9条 一、日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
二、前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

館長あいさつ

平素より、甲田人権会館の事業・活動に対しまして、ご支援



館長 下小城和浩

援ご協力いただき厚くお礼申し上げます。4月1日の人事異動により、甲田人権会館の館長に就任しました下小城和浩です。よろしくお願いたします。

人権会館は、同和問題を人権問題の柱としてすべての人の基本的人権を尊重するとともに、その意識を高めていく場であり、ひとり一人の「つながり」を通じて、「人権のまちづくり」の拠点としての役割、また「地域福祉」の推進の役割を担う施設であります。地域のみなさんが、笑顔で元気に生き生きと過ごしていけるよう願っています。
(頑張る＝願生る…差別がなくなるよう願いに向かって生きる)

第67回 12/4~10 人権週間記念講演会

仏教と人権

～本願寺と旃陀羅問題～

とき 11月28日 **土** 13:30～15:00

ところ 甲田文化センター ミューズ

講師 林 久良さん (仏教史研究家)



プロフィール

- 1949年 生まれ
- 1997年 「仏教にみる差別の根源」明石書店
- 2004年 「仏教における肉食禁忌について」勉誠出版
『日本仏教への緊急提言』
- 2012年 「姫路皮革物語」
姫路市・美術工芸館での展覧会目録
- 2013年 「膠の歴史」東京で講演
- 2014年 「シーボルトの見た金唐革、姫路擬革紙 in 室津、
姫路の研究」 「姫路美術工芸館紀要」No.9

* 本願寺と旃陀羅差別とは

浄土三部経のひとつである「観無量寿経」に旃陀羅 (Chandala: インドの被差別民) を差別する記述がある。真宗聖典講讃全集第4巻に、この旃陀羅を日本の部落民と訳し、差別観念を助長してきた。1940年、松本治一郎、田中松月、井元麟之ら全国水平社の幹部は、「『観経』及び親鸞上人の和讃の旃陀羅解は断じて誤りであり、その曲解が差別観念を助長してきた。徹底的な研究と善処を要請する」として、東西本願寺に提起した。本願寺は差別をいつまで放置するのか。75年目の現在、浄土真宗本願寺派・真宗大谷派に対して部落解放同盟中央本部・県連合会が「削除・不読」を要請し、協議がおこなわれている。

(浄土三部経: 『仏説無量寿経』 『仏説観無量寿経』 『仏説阿弥陀経』)

主催: 安芸高田市/甲田人権会館

共催: 安芸高田市人権協会・世界人権宣言甲田町実行委員会

後援: 浄土真宗本願寺派安芸教区高田北組

お問合わせ ⇒ 甲田人権会館 ☎・お太助フォン 45-4922

ある精肉店のはなし

上映会のご案内

作品
紹介



- ★2013年釜山国際映画祭
ワイドアングル部門正式出品作品
- ★2013年山形国際ドキュメンタリー映画祭
日本プログラム部門正式出品作品
- ★2013年第87回キネマ旬報
文化映画ベスト・テン第2位
- ★ニッポンコネクション(ドイツ)
ニッポン・ヴィジョンズ観客賞
- ★第5回辻静雄食文化賞



とき **12月12日(土) 13:30~15:50**
ところ **甲田文化センター ミューズ**

入場無料

主催：安芸高田市／甲田人権会館

共催：安芸高田市人権協会・世界人権宣言甲田町実行委員会



大阪貝塚市での屠畜見学会。
牛のいのちと全身全霊で向き合う
ある精肉店との出会いから、この映画は始まった。
家族4人の息の合った手わざで牛が捌かれていく。
牛と人の体温が混ざり合う屠場は、熱気に満ちていた。
店に持ち帰られた枝肉は、
丁寧に切り分けられ、店頭に並ぶ。
皮は丹念になめされ、
立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。
家では、家族4世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。
家業を継ぎ7代目となる兄弟の心にあるのは
被差別部落ゆえの
いわれなき差別を受けてきた父の姿。
差別のない社会にしたいと、
地域の仲間とともに
部落解放運動に参加するなかで
いつしか自分たちの意識も変化し、
地域や家族も変わっていった。
2012年3月。
代々使用してきた屠畜場が、
102年の歴史に幕を下ろした。
最後の屠畜を終え、
北出精肉店も新たな日々を重ねていく。
いのちを食べて人は生きる。
「生」の本質を見つけてきた家族の記録。

北出さん家族と一緒にいるときも、
地域にいるときも、私は大きな安心感
に包まれていた。生まれ出た場所で、
自分が自分として生きること。それを
考え抜き、生き抜いてきた彼らは、
しなやかでありながら揺るぎなく、
そして果てしなく慈愛に満ちていた。
監督：瀬瀬あや

監督のことば

「人間、額に汗して働いてなんぼや」とは、よく新司さんが口にする言葉だ。とにかく北出家の人々はよく働く。新司さんが店を引き継いでからは定休日を作ったが、それまでは一年のうちには休めるのは元日のみだったという。それを小学生のころから続けてきたのだから筋金入りだ。

朝は牛や豚の餌やり、舎内の掃除から始まり、屠場での屠畜作業、店に帰ってきたらすぐに内臓の処理をし、腸は新鮮なうちに油かすにする。今のようにボイラーや機械式の攪拌機がなかったから、薪を一時間ほどくべ続け、一、三頭分合わせた百キロ近い腸をかき混ぜながら炒る。血は圧搾機で絞って干して血粉にし、畑の肥料として売る。馬肉はやはり一日がかりで薪を焚きながらサイボシと呼ばれる燻製にする。家にはしょっちゅう馬喰さん(売買をする商人)やその他の来客が訪ねてきて、女性たちは台所仕事でも大忙しだった。

瀬瀬あや

わけが違う。人も、動物も、肉も、その個体はひとつとして同じものではなく、また時間と共に刻々と変化していく。五感を働かせ、経験と知識に裏付けられた知恵によって、自らの肉体をもって目の前のものに有機的に反応していく。それが先祖より営々と続いてきた、彼らの仕事だった。

そして、それは「映画を作りたい！」と突然自分たちの中に飛び込んできた私という人間に対して、も、なんら変わる事がなかった。私が何を求め、何を必要としているのかを感じとって、北出さんご家族は惜しみなく与えてくださった。カメラを向けながら、その様子を見つめ、耳を澄ましてきたつもりだったが、同じように、いやそれ以上に、北出さんたちが私を見つめ、問いかけ、映画を作るという行為すべてを包み込んでくれたのだと思う。

生まれ出た場所で、自分が自分として生きること。そのことを考え抜き、生き抜いてきた彼らは、しなやかでありながら揺るぎなく、そして果てしなく慈愛に満ちている。